

第634回番組審議会報告

2019年1月17日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員（書面） 砂間裕之委員
太平信恵委員 津村記久子委員 東野博昭委員（書面） 細見良行委員

■毎日放送出席者

梅本専務 木田常務 宮田取締役
長谷川スポーツ局長、木村プロデューサー
高山コンプライアンス室長 菅野番組審議会事務局長

◆議事の概要

1) 年頭挨拶（梅本専務）

2) 審議事項

テレビ番組「泣ける高校スポーツ ラグビー物語」
（2019年1月3日（木）8:00～9:00 放送）について意見交換した。

◆【番組概要】

●今年9月にワールドカップが日本で開催されるなど、盛り上がり期待される日本ラグビー界。この番組は高校ラグビーの聖地「花園」を目指す三つの高校ラグビー部を、俳優・大谷亮平、元フィギュアスケート選手・村上佳菜子、お笑い芸人・中川家が取材。そのVTRを小島瑠璃子らスタジオ出演者が見ながら「ラグビー愛」を語り合い、ラグビーの魅力を再認識する。

●出演者

[スタジオ出演]小島瑠璃子、武井壮、小杉竜一、松本伊代、大畑大介
[VTRロケ出演]大谷亮平、村上佳菜子、中川家

●取材校

高鍋高校（宮崎県代表）「亡き友との約束」、
大阪桐蔭高校（大阪第一地区代表）「母ちゃんに嬉し涙を」
流通経済大学附属柏高校（千葉県代表）「死の淵で悟ったラグビー愛」

【各委員の主な意見は次の通り】

- * もっと“どストレート”なスポーツドキュメンタリーが見たかった。各現場にリポーターをつけたことで、一番届けたいラグビー現場のドラマが薄まってしまった。スポーツとバラエティテイストが混ざり合い、中途半端さだけが残った。
- * スタジオ出演者も誰がメインの進行なのかわかりにくく、それぞれの良さが十分に生かされていなかった。
- * 番組タイトルはじめ、なぜ泣かせる内容が必要なのかが引っかかった。「泣ける」と言われると身構えてしまう。
- * スポーツの面白さは感動。泣かなくても感動はある。もう少し正統派な演出で番組を作ってみてもよかったのではないか。
- * いろいろなスタジオ出演者がいたが、小島瑠璃子さんは若いのによくまとめていたなと思う。VTRロケも3校それぞれ違った切り口で面白かった
- * 泣かせようとする、コマーシャル前の松本伊代さんの涙顔のアップはいらなかったと思うが、高校生たちや監督のドラマには結局泣いてしまった。
- * 全体的にテロップが多いうえに、大谷亮平さんの言い間違いをテロップで修正しているのは違和感を覚えた。言い直してもらうべきでは？
- * 元フィギュアスケート選手の村上佳菜子さんのレポートはスポーツ競技経験者ならではの感想や指摘がありよかった。
- * 大阪桐蔭の高校ラグーマンの母親が息子の応援に頑張る様子は他の話とは異なり日常の姿をレポートしていてよかった。ただ、番組を見る限り、事実と異なり母子家庭に見えてしまったのは残念。
- * ラグビーを知らない視聴者に向けて、ルールの解説がほしい。

*ラグビーの舞台裏ばかりではなく、もっとラグビーを正面から描いたものが見たかった。

*世間がイメージするステレオタイプな高校生像を描いていたように思える。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

*何か訴えかけるものが欲しくてこのタイトルにした。もちろん泣けるか泣けないかは視聴者が決めることと思っている。「ラグビー」を全面に出すとファン以外の視聴者は見ないと思い、「泣ける高校ラグビー」とはせずに「泣ける高校スポーツ」とした。

*番組タイトルはスタッフで考えたものだが、やっぱり引っかかりは正直あった。次回チャレンジする機会があれば、「泣ける」というフレームに落とし込み過ぎたところは反省すべきだと思う。

以上